

令和3年度 さいたま市立大宮別所小学校 自己評価書

校長 和田 卓也 印

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 『自分の思いをもち 考えを深め 豊かに表現できる子の育成』を研究主題に国語科・算数科を中心に学校課題研究を充実させる。また、GIGA スクール構想の推進としてアクティブラーニングの視点に立ったICT機器の効果的活用を図るとともに、「個に応じた指導」を充実させる。
—教育課程の編成・実施状況、各教科等の授業の状況
- (2) コミュニケーションの基盤となる「心を潤す4つの言葉」を推進し、教職員の率先垂範のもと、「あいさつ」運動の推進をする。 —児童生徒の状況、生徒指導の状況
- (3) 「いじめ見逃しゼロ」に向けた取組を強化し、いじめは積極的に認知し、全教職員で対応する。心と生活のアンケートの活用等を通し、児童に寄り添いながら、いじめの早期発見に努める。「SOS の出し方に関する教育」を推進するとともに、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携を強化し、教育相談、生徒指導、特別支援体制の機能を強化して体制の充実を進める。
—生徒指導の状況、いじめ防止の状況、不登校児童生徒への支援の状況、教育相談の状況
- (4) 学校運営協議会、学校評価を充実させ地域や保護者と共にあるコミュニティ・スクールの推進を行う。また、個人面談・学校公開・授業参観等の効果的な実施をし、学校安心メールの活用、学校だより、学校ホームページ、保健だより等の充実及び活用を通し、積極的な情報発信を行う。
—学校と保護者、地域住民との連携の状況
- (5) 各主任を中心に組織運営の推進を行い、報告・連絡・相談・確認（見届け）の迅速かつ確実な実施をし機動力ある組織づくりを行う。 —組織運営の状況
- (6) ICT機器の効果的活用を行い、勤務時間を意識した働き方改革の徹底をし、計画的な業務遂行を進めることで教職員の働き方改革を推進する。 —組織運営の状況

2 評価結果について

- (1) 保護者アンケート「学校は、基礎学力の定着・授業力の向上（かしこく）に努めている。」では91%、「学校は、創意工夫を生かした特色ある教育活動に取り組んでいる。」では82%の肯定的意見を得た。児童アンケート「授業はわかりやすい」への肯定的な回答は96%に達している。また、教職員アンケート「学習内容を明確にした授業を展開している」への肯定的な回答は9割に達し、指導力向上への関心が高まっている。本年はICT機器を活用の幅を広げた児童の実態に応じた授業改善が見られた。
- (2) 保護者アンケート「学校は、子どもたちが集団生活に必要な、ルールやマナー、基本的生活習慣の向上に努めている。」で90%の肯定的意見を得た。児童の95%の児童があいさつができていますと回答しており、コロナ禍にあって昨年同様の高い結果が見られた。教職員の87%（昨年比35%向上）も肯定的回答をしていて、あいさつについての取組に一定の成果がみられた。
- (3) 設問「悩みごとや困ったことがあったとき相談できる先生や友達がいる」に対し、92%の児童が肯定的な回答をしている。心と生活のアンケート後の、朝相談タイムを活用することで、より児童理解を推進するとともに、悩みごとやトラブルの早期発見・早期対応に努めることができた。今後も保護者との連携を密にしなが、児童一人ひとりに寄り添った指導を推進していく。
- (4) 保護者アンケート「学校は、積極的な情報発信・受信に努めるなど、「開かれた学校づくり」に務めている。」は、91%の肯定的意見を得た。今年度は実施の仕方を工夫しながら、その時の状況においてできる限り学校公開や授業参観を実施した。また、学校安心メールによる適時の情報発信にも努め保護者から個別に賛意の声をいただくこともあった。第2回学校運営協議会では、教職員、評議員に加え、地域代表と保護者代表を交えた4者による熟議を実施した。
- (5) 保護者アンケート「学校は、保護者・地域からの相談や要望に対して、適切に対応している。」では、88%の肯定的意見を得た。昨年度より1%の向上が見られた。また教職員の「開かれた学校づくり」については94%の肯定的な回答があり、地域、保護者と連携した学校づくりが進んでいるといえる。
- (6) 教職員アンケートでは、「やりがい、働き甲斐のある職場になっている。」が87%、「人事評価等による職員の資質伸長のための指導・育成の実施」についてが93%、「働き方改革についての指導助言」が90%と高い肯定的回答率となっている反面、「業務改善の取組」については67%と比較的低い評価となっており、職員の主体的な働き方改革の推進の必要性が明確となった。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・ 毎月の生活目標と生徒指導、人権等の観点からの「強化月間」との連携をより明確にし、めあてと手立ての具体的な実行を進めることで、より効果的な生徒指導体制を確立する。
- ・ タブレットの日常的持ち帰りやドリル教材の見直し、授業研究の充実等を通して「協同的学び」と「個別最適化」に重点を置いた学習を進め、学力の向上を目指す。
- ・ 組織力、指導力の向上に向けて職員研修を充実させていく。